

活動報告書

所属：生殖医学研究班 提出日： 令和 7 年 9 月 6 日 報告者：及川 彰太

行事種別	講演会		行事番号	250007970	
開催日	令和 7 年 9 月 6 日(土)				
時 間	開 始	14 時 00 分	終 了	16 時 30 分	
場所・配信	日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院（所在地 名古屋市）・現地のみ				
テーマ	男性不妊を学ぼう（精液検査の基礎、男性不妊の基礎）				
生涯教育履修点数	専門教科 20 点				
司 会	八千代病院 小笠原 恵 技師				
講 師	「精液検査の基礎」 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 蓼沼 美砂 「男性不妊の基礎」-生殖医療センターの取り組みと男性不妊症の現状- 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 泌尿器科教授 梅本 幸裕				
内 容	1. 「精液検査の基礎」 WHO から発刊されている精液検査ガイドライン第 6 版に基づき精液検査の基礎について説明していただきました。精液量については、重量法と容積法について説明していただき、容積法はシリンジを用いて測定するため過小評価をしてしまうため非推奨方法であることについて教示いただき、有用な情報提供となりました。愛臨技精度管理事業のアンケートでもあるように県内医療機関の精液検査はマクラー計算盤が多く使用されています。簡便に精液検査を実施できるものの、WHO の推奨する計算盤ではないため、本講演を聞くことで精子数や運動精子率の正しい検査方法を今一度学ぶことができました。 演者の所属施設の妊孕性温存のための精子凍結に関するお話もありました。がん治療後の妊孕性確認した結果についてもお話しいただき、がん治療後も自然妊娠した症例もあることを教示してもらいました。がん治療後の患者については継続的に精液検査をして評価をする必要があることをお話ししていただきました。参加者からは精子凍結しているものの更新に関する案内を出したものの連絡がつかない場合はどうしているかなど活発なディスカッションが行われました。 2. 「男性不妊の基礎」-生殖医療センターの取り組みと男性不妊症の現状- 西部医療センターに生殖医療センターが開設された経緯から始まり、不妊症の疫学、男性不妊症、精巣内精子採取術（TESE）、精索静脈瘤のお話をしていただきました。 日本は出生数が劇的に減少しており、人口動態統計を基に現在の日本の合計特殊出生率や第一子出産時の女性年齢を提示していただきました。疫学を学ぶ機会が少ないため新しい知見を得ました。				

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）

	不妊原因の半分は男性因子であるものの、男性不妊症についてはいまだに知られていない実情について触れ、泌尿器科が関与できる停留精巣は不妊症につながるだけではなく癌化すること、尿道下裂は陰茎が曲がってしまい性交渉を取れないことがあるなど、臨床検査では学ぶことのできないたくさんのお話をさせていただきました。 精子形成のメカニズムの中で精巣容量、ホルモン値を診断に使うこととお話ししていただきました。なぜ精巣容量を検査することが重要なのかを分かりやすく解説していただきました。 精索静脈瘤は演者施設の精索静脈瘤手術の動画を供覧していただき、手術の解説をしていただきました。また、精索静脈瘤手術を施行した患者の術後の不妊治療の成績を教示していただきました。手術を契機に不妊治療をステップダウンで妊娠成立したことをお話ししていただきました。 参加者からは癌治療後の患者の精液中に精子を認めた場合、射出精子を用いた ART がいいのか、それとも TESE 精子を用いた方がいいのかなどの質問があり、演者から分かりやすく回答をしていただきました。 以下余白
参加者	合計：31 名（会員 26 名、県外会員 0 名、講師 2 名、実務委員 3 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名）事前参加申込数：29 名
共催、後援など	無し

合計：現地開催（講師・実務委員・参加者）、
ライブ・オンデマンド配信（講師・実務委員・レポート提出者）